

議 会 広 報 広 聴 委 員 会 記 録

令和 2 年 7 月 28 日（火）
09 時 29 分～12 時 10 分
第 4 委 員 会 室

【出席者】 三浦委員長、西川副委員長、
村武委員、川上委員、小川委員、野藤委員、笹田委員、芦谷委員、
佐々木委員、澁谷委員

【事務局】 下間次長、小寺書記

【印刷業者】 柏村印刷株式会社 山田次長

議題

1 はまだ議会だよりVol. 58の編集について…………… 資料1

(1) 校正作業

ページ	担当委員	記事
1-5	芦谷委員 佐々木委員	表紙、写真、目次、議員定数等アンケート結果、 コロナに伴う議会の動き、5月臨時会議ポイント
6-9	川上委員 澁谷委員	6月定例会議ポイント、補正予算、6月定例会議ト ピックス、賛否、請願・陳情審査、討論
10-12	小川委員 野藤委員	個人一般質問（8名分）
13-16	村武委員 笹田委員	個人一般質問（7名分）、地域井戸端会開催周知、 表紙の紹介、9月定例会議日程、あとがき

(2) その他

2 議会報告会（地域井戸端会）について…………… 資料2

- (1) 市民アンケートからの議会報告会等に関する意見
- (2) 実施会場と担当班
- (3) その他

3 ミニ広報（ウェブ版）について…………… 資料3

4 その他…………… 資料4

- (1) SDGsの理解を深める研修
- (2) 新ページレイアウトに向けて

【次回委員会開催予定日】 令和 2 年 8 月 21 日（金） 第4委員会室

【議事の経過】

[09時 29分 開議]

三浦委員長 | ただいまから議会広報広聴委員会を開催する。出席委員は10名で定足数に達している。配布されている議題に沿って進める。今日はその他含め4点である。

1. はまだ議会だよりVol. 58の編集について

(1) 校正作業

三浦委員長 | 今日は校正作業である。まず事務局から説明をお願いする。

小寺書記 | (以下、資料をもとに説明)

三浦委員長 | すでに配信されてご覧になっているかと思う。10分程度時間を取るので、ペアの方と見直す時間を9時40分過ぎまで取りたい。お願いする。

《 以下、校正作業 》

(2) その他

三浦委員長 | 議会だよりについてその他あるか。

(「なし」という声あり)

2. 議会報告会（地域井戸端会）について

(1) 市民アンケートからの議会報告会等に関する意見

三浦委員長 | 小寺書記から説明をお願いする。

小寺書記 | (以下、資料をもとに説明)

三浦委員長 | 澁谷委員からもご提案があったが、この結果を踏まえ皆からご意見、ご感想をいただきたい。

川上委員 | マンネリ化しつつあるので、団体で意見を聴きに出ることも検討したほうがよい。

澁谷委員 | 今までも視察に行かせていただいた中では、議会の人間が待ち構えていて、要望のある市民に来てもらって話をするという方法もあったし、市民の方に本会議場で何分か質問してもらった形もあった。

何か違う形にチャレンジしていかないと、せつかくの今の正副委員長コンビの名が泣く。

三浦委員長 | 先般、議員定数等議会改革推進特別委員長から提案があった。議

会報告会の回数を増やしたらどうかというものである。今回の議会だより発刊時期や、今回の議会報告会の時間、開催場所を当委員会でも検討していることをお伝えし、ご意見を頂戴すると回答した。

公民館に出向いて、あるいは議会図書室を活用して、議員が待つ要望を受け付ける方法も検討すべきではないかという提案もいただいた。どうやったらできるか、前向きな視点が必要だが、市民との対話の場はどのように作るべきか。以前の委員会でも話が出ていたと思うが、本来広聴機能は当委員会だけの問題ではなく、各委員会が所管事案を検討する際にきちんと広聴して、委員会審議をするのがあるべき姿だと思う。議会全体としてどのような広聴機能を果たすべきか、その際にはどういうやり方がよいか、ここで意見交換をしたい。新しいトライについて話がしたい。前向きに提案していただきたいし、コロナで出にくい中、どうやって意見を吸い上げて、広報していくか、より一層考えるべき時である。いろいろな可能性を踏まえ、皆の持っている知見を出していただきたい。感想でも結構なので出していただけたら。

笹田委員

議員定数等議会改革推進特別委員会でも議論した。今回のアンケートを取ってみて、市民の理解を得られていない。広報広聴機能を充実させるべきだとの結論に至った。月2回、2人ずつ出れば、24回、必ず回ってくる。全議員で取り組むべきことだと思う。いろいろな意見を集約して前向きに進めるべきだと思う。

佐々木委員

今回アンケートで一番感じたのは、市民の議会や議員に対するイメージがあまり変わっていない。その理由の1つは、議員の動きがわからない。議会中以外の平日に何をしているかわからないことが不信感につながっている。もう1つは、市民の意見をもっと広聴してほしい。こういう声が非常に多かった。その声を受けて今後どうするかも、アンケートを生かす取組になるので、ただ数を反映させるだけがアンケートの反映ではない。そういった意見をいかに今後の取組に変えていくかが、市民の皆からいただいた意見への答えだと思う。できることを模索していくことが改革の流れである。意見にもあるように、議会報告会と地域井戸端会が市民に受け入れられていないのが非常に残念である。続けていくのか、それとも変えていくのか。先ほどの輪番制という話もあったが、なるべく普段手が入れない山間地や集合住宅に入っていくって意見を聞くことも、機能

としてやっていくべきだと思う。

各委員会でも所管の各種団体の話を聞いて施策に反映させていくことが大事である。先日、福祉環境委員会で子育て世代の話を伺ったが、非常によかった。それを受けて議会が執行部に向けてどう取り組んでいくか。広聴した答えを出していく。

今までは聴きっ放しだった。ホームページに掲載しても誰も見ない。できるだけ短期間で敏感に反応して出していくべきなのだろうと感じている。この委員会と、議会改革の特別委員会の中でやっていくべきことだと思うが、議会全体として全体の動きを検討していくべきだと思う。

芦谷委員

アンケートを見ても議会だよりが一番多い。難しいとは思いますが、何とか市の広報の真ん中に、裏表1枚分に議会のことを入れていただけないか。市民にPRしやすい形にして、議長がどこへ行ったとかを公表する。議会だよりを何とか市の広報の間に、2ページ分だけでも、委員会がどこへ視察に行った、視察を受け入れたなどの動きを発信できたらと思う。

野藤委員

市報に入れるとなると何カ月もかかるので、折込みで入れてもらったらよいのでは。年4回以外はそういった号外を入れたらどうだろうか。

芦谷委員

2月かかるかもしれないが、前に進んでいる。議会側が責任原稿を入れる。そうすれば2月待たなくても、20日前くらいに入れば、そのまま印刷してもらえるのでは。2月も間があくと古い話になる。直近の新鮮な情報を載せたい。

小川委員

前期の議会広報広聴委員会からの引き継ぎにも、市民の一日議会という話が一定程度検討されていた。もし具体化できていれば今回のアンケートでも少し違った見方があったのではないかな。あれもなかなか進まないのはそれなりの理由があるかと思うが、広報広聴機能のチャンネルを増やすことは大事なのではないか。何でも相談に来てください、担当がいます、毎週ここで受けていますと。聴くだけになるかもしれないが。議員に言いたいことがあれば、ここに行けば必ずいるという形にする。

市民はスピード感を求めている。できるところから少しずつ具体化することが大事だと思う。

村武委員

できるかわからないが、私自身オンラインでの会議が増えた。大

人数が入ってもグルーピングして、少人数に分かれて意見を聞くことも可能だと思うので、そういったことをしていけば若い世代の方が、会場に行かなくても意見を言う機会ができるのかなと感じている。そのあたりを研究してもよい。

三浦委員長

今出たテーマに絞って地域井戸端会をしたらどうかとか、市民スピーチの実施、輪番制相談室を構える、市報への差し込み、オンラインでの情報発信というアイデアが出た。議長は以前、議会には市長がやっている「扉を開けて」的なものがないと言っておられた。議会としてどういう形にするかは違う話かもしれないが、とにかくいろいろな方法でできることをやっていったらと思う。

具体案を詰めていく時は、できたら提案に対して、どう具体的にやったらよいのか、どのくらい予算がかかりそうかを添えて提案していただけると、議論が前に進むかと思う。宿題という形だと大変かもしれないが、今おっしゃってくださったようなアプローチ、方法を、もう少し深掘りしたアイデアシートを次回の委員会に持ってきていただきたいのだが、よろしいか。

(「はい」という声あり)

それを持ち寄ってアイデアを重ねていく形がよい。

西川副委員長

一日議会、どういう形にしる実現しないといけないと思う。また議会報告会や地域井戸端会については、議員が出ていくスタンスは重要だと思っている。ここ1、2年でやり方を変えつつ、公民館と連携もしている。今回は公民館以外も入れている。議員が出ていくスタンスはこれとして、形を変えながらでも続けることが重要だと思う。委員会単位のことでも進めていかないといけないと思う。

三浦委員長

公民館やほかの機関との連携も大事な視点だと思う。次回の委員会にて、皆の意見を深掘りしていきたい。検討していただけるとありがたい。

(2) 実施会場と担当班

三浦委員長

小寺書記から説明をお願いします。

小寺書記

(以下、資料をもとに説明)

三浦委員長

変更点が若干あるが、この形で各議員に案内してよいか。

(「はい」という声あり)

ではこのように進めさせていただきます。

(3) その他

- 三浦委員長 その他、何かあるか。
- 澁谷委員 次の委員会までに案を持ち寄ると言われたが、皆持ってこない。
何日までにきちんと提出させるようにしたらどうか。
- 三浦委員長 締め切りを設けてメールで提出してもらおう。
- 笹田委員 こういう状況の中、紙面にやる、やらないも含めて広報しないと
いけない。議論しておかないとほかの議員にも伝えられない。昨日
も出雲でまた1人感染者が出た。
- 三浦委員長 昨日の議会運営委員会で、視察をどうするかという話が出た。当
面とはなっているが、確かに、やる、やらないをどこかで区切りと
して判断しないといけない。
- 下間次長 浜田市内で発症したらできないと思う。その境くらいしか今は
ないかと。もう出雲で出ているし、江津と益田で出たらやめるのか
と言われれば、それもどうなのだろう。やめるなら今の時点で、県
内で発生したのでやめると決めるのも1つの選択肢だろうし、しかし
何もかもやめてしまうのは議会活動が止まってしまうイメージもあ
る。やる方向で進めて、仮にどこかの時点で浜田市で発症した場合
にはやめるくらいしか線引きできないかと思う。
- 笹田委員 例えば石見地方に出たらやめると線引きしたらどうか。こういう
状況の中、市議会議員がどこに行っているかわからない中でやっ
ても敬遠されるのではないか。人が来なければ意味がない。
- 三浦委員長 どう思われるか。
- 下間次長 5月は県内に出たからやめた。
- 澁谷委員 議会だよりも市民に届くのは9月。紙面に出せばやらざるを得ない
感じになる。
- 三浦委員長 いつを目途に判断するとかも考えておかないといけない。確かに9
月発刊ならぎりぎりになってしまう。
- 野藤委員 それは確認しておいたほうがよい。
- 澁谷委員 浜田で感染者が出る以外は開催すべきだろう。
- 笹田委員 線引きが難しい。江津で出た場合はよいのかとか。
- 佐々木委員 県境もある。
- 笹田委員 出にくい状況になった場合、そこで開くと余計に批判が出る可能
性がある。基準を今決めておくべき。
- 下間次長 載せるのは載せて、その基準を決めるということか。

- 笹田委員 そう。とりあえず9月末までは視察取りやめと決まったが、10月は微妙な時期。会議がない中、方向性はある程度決めておきたい。
- 下間次長 笹田委員は、視察の中止が10月まで延びたら地域井戸端会もやめるべきだとお考えか。
- 笹田委員 自分はそう考える。
- 澁谷委員 議長団の判断は。
- 佐々木委員 自分は慎重派である。県内もどんどん感染者が出ている状況で、強引に開催するのは理解が得られないと思う。無理に開催する必要はないかと。それにかわるものとして、今後の議会報告会や地域井戸端会を変える取組で地域に出向くといったことはできると思う。そういう方向を目指しながら、安心できる時期にやっていく。今の段階ではどうかと個人的には思う。
- 澁谷委員 原稿に入れてしまった後だ。
- 佐々木委員 緊急事態宣言が解除された落ち着いたころならよいが、まだ盛り上がっている状況でやるのはどうか。それにかわるものを、できる時に考えるほうが。
- 下間次長 10月にまったく収まっている可能性は恐らくない。
- 三浦委員長 この委員会では判断ができない部分があると思う。
- 下間次長 委員の皆さんの的にはどうか。
- 三浦委員長 皆から伺ってもよいか。率直にどう思われるか。
- 川上委員 基本的に私は来月5日の研修にも参加しないつもりである。これは10月だが、やめたほうがよい。
- 芦谷委員 状況によると思うが、今のままでいくと刻一刻と状況が悪くなっている。議長団も含めて気持ちを合わせて、間髪入れず判断していくべき。やめる方向のほうが強い。
- 村武委員 今の状況から見ると難しいかと思う。地域井戸端会を開いて、例えば議員の誰かからうつる可能性もある。議員が浜田市外に出ないかどうかわからない。誰がどこに行っているか、そこまで制限はできないので難しい。
- 小川委員 少し見合わせたほうがよいという気持ちが強くなった。緊急事態宣言が出たらできないし、市内に陽性患者が出たら即やめる判断をせざるを得ないのは当然なのだが、そこを想定して、地方都市でどうかは想像つかないが、やめる方向のほうが正しい気がする。
- 野藤委員 あと2カ月ちょっとあるので、もう少し様子見をしたらよいと思う。

- 議会の姿勢を見せたほうがよい。結果中止となったとしても、記事は載せるべきである。
- 澁谷委員 議員がファシリテーターとしてテーブルを囲む形になる。3密等も考えると難しい。9月の議会だよりに載せたら、もう中止にはできない。それを考えると、石橋を叩きたい。
- 西川副委員長 やる、やらないの判断が今の時点で議長団にできるならそれを反映させるが、紙面にはこの号には何らかの形で載せて、もし判断ができるならやめる、できないならこういう判断基準をもって判断して、どういう周知方法で周知すると書いて残す。まだホームページに出ていないなら紙面に載せて、同じ内容をホームページに掲載して、周知の方法はどうするのか。よい周知方法があれば載せたい。
- 野藤委員 コロナ対策というか、例えば会場は定員何名でやるとか、防護対策、マスク着用とか、そうやって対応する。なおかつ市内や近隣で発生した場合は中止にすることを書けばどうか。いろんな会合や食事会でも必ず、対面しないように設定されている。皆対策はしている。対策をしていることがわかれば済むのかと思う。
- 西川副委員長 気が変わった。やはり難しいと思う。このスタイルはやめて、新しいやり方をこれを機に考えて、どこかへ行ってやるとか、ウィズコロナ仕様の設定づくりの機会を探してやるとか。このスタイルは難しい。
- 澁谷委員 今はもうマスクだけでは許されない。万全を期している証明がないと。
- 笹田委員 盆踊りや秋祭りに対して不安を感じていて、市の方針をたくさん聞かれる。9月末に秋祭りがある。未知のものなので恐れている。開催したら逆に批判される可能性もある。議員が思っている以上に、高齢者は不安に思っている。
- 澁谷委員 市民の3分の1は高齢者である。
- 笹田委員 市民感情を考えたほうがよい。
- 三浦委員長 いろいろ意見はあったかと思うが、多くの委員が、万が一を避けたほうがよいという慎重派の意見が多かったように思う。できれば、やれることはやりたいという思いは皆持っているが、周知した際のフォロー等を考えるとリスクのほうが大きい。当委員会の考えとしては、開催は難しいのではないかということで、議長団に開催について委員会としての意見を伝えて判断を仰ぐ、議会だよりの掲載は

落とす。予定はしていたが、昨今の状況に配慮して中止する。しかし、やらないから、できないからほかの形で何か、意見をどのように伺えるか検討して対応したい、ということを書いて、記事を差し替える形で対応させていただいてよろしいか。

(「はい」という声あり)

ではそのようにさせていただく。

3. ミニ広報 (ウェブ版) について

三浦委員長

私から説明する。

(以下、資料をもとに説明)

澁谷委員

レイアウトセンスがよい。

三浦委員長

どうだろうか。1回目は、これを発刊するのは正副委員長が担当する。10月くらいを目途に。9月に議会だよりが発刊された後に。もしそれを決めれば、空欄に、今後は広報を増やすと書いてもよい。記事をどうするかはまたご提案し、ご協力いただく形でやろうと思うが、よろしいか。

(「はい」という声あり)

これはウェブに掲載するものなので、レイアウトも記事の中身も変えられるので、どんどん提案いただきたい。

4. その他

(1) SDGsの理解を深める研修

三浦委員長

事務局から報告をお願いする。

小寺書記

(以下、資料をもとに説明)

三浦委員長

開催可否は置いて、中身についてご意見があれば。地域日本語教育コーディネーターとあるが、この方々の所属はJICAで、JICA中国島根デスクにおられる方が来てくださる。講師としては問題ないかと思う。特に意見はないか。

(「はい」という声あり)

(2) 新ページレイアウトに向けて

三浦委員長

今後の新紙面における企画について、副委員長から提案をお願いする。

西川副委員長

(以下、資料をもとに説明)

三浦委員長 何かご意見は。
野藤委員 これはカラーか。
小寺書記 現行予算でカラーにできるページがあるので、そこに割り当てるイメージである。
三浦委員長 ほかに意見は。
(「なし」という声あり)
議会だよりなので、議会としてこういう切り口があったほうがよいかと思う。議会だよりの伝えたいことをかけ合わせて、こういう方々を紹介できるとより面白いと個人的には思った。紙面にメリハリが出て面白いと思う。また皆とブラッシュアップしていきたい。

(4) その他

三浦委員長 小寺書記から説明をお願いします。
小寺書記 地方議会人の7月号にはまだ議会だよりの講評が載っているページがある。こちらに2部あるので、後でご覧いただけたらと思う。
笹田委員 配信していないのか。
小寺書記 はい。
下間次長 載せてもよいと思う。いろんな方に配るわけではないので。
小寺書記 では、外には出さないようにということで、後でタブレットに配信する。
下間次長 著作権の問題を言われたら困るので。
小寺書記 取扱注意でご覧いただきたい。
野藤委員 掲載候補者を次回までにそれぞれ考えてきて、あわせて討議する材料にしてはどうか。
三浦委員長 どういう切り口でこういう方にインタビューすればよいといった案も、新しい広聴のアイデアとして、2つ。
笹田委員 人物については最初に企画されている部分があるので、個人的なつながりがあってもよくないので、相談したい。
三浦委員長 そちらのほうがやりやすいのであれば、初回は副委員長に出してもらって、2回目以降からは皆でというやり方。
笹田委員 例えば皆議員で、選挙もある。自分の支援者を出すわけにもいかない。
西川副委員長 切り口やコンセプトの案があれば出してもらって。
笹田委員 個人的な知り合いを出すのはまずいと思う。そのあたりのさじか

- 野藤委員 げんが難しい。
親しいということではなく。
- 笹田委員 疑われても困る。
- 三浦委員長 例えば、荷捌所が新しくできて、関係者の方に今後の期待感を一緒に話すとか、最近のトピックスとあわせて対談するとか。アイデアと懸念点も出していただければありがたい。
- 小寺書記 次の委員会は、9月の一般質問の最終日までに1回挟むとよいと思う。柏村印刷から新しいレイアウトアイデアをいただくのは盆明けの予定である。
- 三浦委員長 新レイアウトを皆に見てもらふ必要もある。
(以下、日程調整)
では次回は、8月21日の午前10時から開催する。それまでにメールを送るのでご協力をお願いします。皆からはほかにないか。
(「なし」という声あり)
では以上をもって議会広報広聴委員会を終了する。

[12時 10分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

議会広報広聴委員会委員長 三浦 大紀